

平成27年度

島根大学教育学部附属学校園研究紀要

学び続ける子どもの育成（2年次）

～ 問いをもち主体的に追求する姿を目指して～

島根大学教育学部附属学校園

はじめに

島根大学教育学部附属学校部長 藤田英樹

国立大学の教員養成学部、大学院、附属学校には改革の波が押し寄せつつあります。第3期中期目標計画期間中における国立大学法人の組織及び業務全般に関わる見直しの視点では、「附属学校は、第3期中期目標期間中に、学部・研究科等における教育に関する研究に組織的に協力することや、教育実習の実施への協力を行うことなどを通して、附属学校の本来の設置趣旨に基づいた活動を推進することにより、その規模も含め存在意義を明確にするとともに、大学の持つリソースの一層の活用も含め、先導的・実験的な取組をはじめとする附属学校に本来求められている機能強化を図る事」と提言がされており、これまで以上に附属学校の存在意義を明確にしていく取り組みが求められています。

本学の附属学校園では平成16年の法人化後、学部と附属を一体的に経営する組織整備を始め、幼小中一貫教育を基盤とした校種間の垣根を取り払った連携や協働を通して、附属学校園の一体的な運営を進めてきました。これらの成果は教育研究、実習指導など多岐にわたる密度のある学部と附属学校の協働の形として、全国的にも高い評価を受けているものです。しかしながら一方で、附属の教育実践や研究が地域の先生方の求めるものと乖離し、地域教育に還元されにくいなどの課題もありました。

平成28年度からの第3期中期目標計画期間、附属学校はその目標として「21世紀を生き抜く力を備えた人材を育成する新たな教育・研究活動を推進し、地域の教育力向上に貢献するためにその成果を発信する。」ことを掲げ「アクティブ・ラーニング等の新たな教育課題に対応した実践的教育・研究活動を強化し、その成果を全国及び地域に発信する。」ことを計画としました。徹底して地域の教育に貢献することが本学附属学校園の使命であり、地方大学の附属学校の形としてその存在価値を示していきたいと考えております。

まだ、転換の過渡期ではありますが、現代的教育課題への取組みや次期学習指導要領を見据えた実践的教育研究活動の強化など、附属学校の研究成果がモデル校として地域の教育に貢献できるよう、より一層努力していく所存であります。今後とも本附属学校園への皆様のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

目 次

研究総論	1
------	---

保育・教科等の取組

保 育	願いをもち、主体的に遊びを追求する子どもをはぐくむ保育	8
国 語	思考する価値を感じる国語科学習	23
社 会	子どもの発達段階に即した社会認識の育成を目指す社会科学習 — 社会生活を豊かにする「問い」の創造と探求する力の育成 —	38
算 数 数 学	数学的な思考と関わる問いをもち、自ら解決しようとする力を育む算数・数学学習	53
理 科	問いを見だし、見通しをもって科学的に追求する力の育成を目指して	68
生 活 科	願いをもって対象と関わり、問いが連続することで暮らしを豊かにする生活科学習	83
音 楽	気付く力を高め、よりよい音楽表現を追求する音楽科学習	92
図画工作 美 術	問いをもち自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習 — 確かな願いをもち、思考の多様性の中で個を求める —	107
体 育 保健体育	運動の心地よさを味わい、技能を高めるための「わかる」を追求していく体育・保健体育学習	116
技 術 家 庭 科	よりよい生活をめざして工夫し創造する技術・家庭科学習 — 生活の中の課題を多面的にとらえ、解決する力の育成を通して —	131
外国語活動 英 語	主体的に英語を学び続ける子どもの育成を目指して	153

おわりに

島根大学教育学部附属学校園は、前次研究の成果を踏まえ、平成26年度から「学び続ける子どもの育成」の研究テーマのもと、「問いをもち、主体的に追求する姿」をめざす姿として、「問い」をキーワードに研究を重ねてきました。これまでの研究実践から、子どもたちがもつ「問い」に対するとらえ方も発達段階や教科の特性があり、「どのようにしたら良いのか」という問いが中心となる教科や「なぜ」という問いが中心となる教科があることも明らかになりました。そして、これまでの実践の振り返りと保育・教科の特性等を踏まえ、保育・教科ごとに「問いをもち、主体的に追求する姿」を定義し、その実現に向けての授業の手立てを設定し単元を構成しました。

今年度、それぞれの教科で、題材との出会いを工夫する、考えの根拠を確認しながら思考を共有する、考えを絵や図に示し可視化する等、子どもたちの思考をゆさぶりながら授業のねらいに迫ろうとしました。また、「問い」と「単元構想」の関係を明らかにした教科や、自らの課題をより客観性をもって多面的に捉えながら最適解を追求する展開の工夫をした教科もありました。今次研究は、「問い」をもつという視点から子どもたちの主体的に追究する姿をめざすことが特色であるといえます。

一方、次期学習指導要領の全面改訂に向けて、平成26年11月、文部科学省から中央教育審議会に対して、「育成すべき資質・能力」に基づく教育課程改革が諮問され、翌年の平成27年8月に教育課程企画特別部会の論点整理がとりまとめられました。その論点整理では、学習する子どもの視点に立ち、育成すべき資質・能力を3つの柱で整理しています。

- i) 「何を知っているか、何ができるか」(個別の知識・技能)
- ii) 「知っていること・できることをどう使うか」(思考力・判断力・表現力等)
- iii) 「そのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)

そして、こうした資質・能力を育むためには、アクティブラーニングが重要であると考え、下記のような3つの視点で子どもたちの学びを改善すべきであると示しています。

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。」(引用：文部科学省教育課程企画特別部会 論点整理 p10～11, p18) とあります。

「問い」をキーワードにしながら本学校園が取り組んできた研究は、論点整理の中で述べられている視点からも、今後の研究の基盤となっていくものと考えます。今後、私たちは本年度の研究の成果をもとに、前述しました次期学習指導要領の改訂に向けて求められている新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を育む実践・研究につなげていきたいと思えます。

最後になりましたが、本附属学校園の研究・実践に対しまして、県・市教育委員会関係者の先生方には、懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。今後とも、本附属学校園の研究・実践に対しまして、多くの先生方の暖かいご理解とご批正をいただきますようお願い申し上げます。

平成28年3月

学校園長 齋藤英明

◆ 平成27年度 共同研究同人（附属学校園教職員並びに教育学部共同研究者） ◆

島根大学教育学部附属学校長 藤田 英樹
 島根大学教育学部附属学校園長 齋藤 英明
 島根大学教育学部附属中学校副校長 樽田 真治
 島根大学教育学部附属小学校副校長 松本 真理
 島根大学教育学部附属幼稚園副園長 伊藤 英俊

【保育】

[幼] ○内田 祐 加納 美紀 金崎沙耶香
 右田真里奈 高井 優加 根本 美幸
 福光 裕子 小松原知子
 [学] 淡野 将太 佐々木明美

【国語】

[小] 喜多川昭博 恩田 一穂 金坂 唯
 [中] ○籠橋 剛 永野 信吾 鳥屋尾慎人
 [学] 田中 耕司 富安 慎吾

【社会】

[小] 和田 律央 大坂 慎也 藤原 良平
 [中] ○岡田 昭彦 原 義昭 前島美佐江
 [学] 森本 直人 加藤 寿朗

【算数・数学】

[小] ○徳永 勝俊 南 晃子 鶴原 渡
 [中] 後藤 幸広 安野 洋 大谷 由香
 中林 千春
 [学] 御園 真史

【理科】

[小] 釜田美紗子 関野 淳也
 [中] ○野崎 朝之 大山 朋江 園山 裕之
 [学] 栢野 彰秀 松本 一郎 辻本 彰
 塚田 真也

【生活】

[小] ○大坂 慎也 釜田美紗子 和田 律央
 [学] 川路 澄人

【音楽】

[小] 神門 洋子 能海 麗美
 [中] ○小村 聡 椎木 千鶴
 [学] 河添 達也 藤井 浩基

【図画工作・美術】

[小] ○三桐 摂夫
 [中] 加藤 舞 小原 恭子
 [学] 有田 洋子

【体育・保健体育】

[小] 小林 敏朗 三島 康紀
 [中] ○藤田 壮志 濱崎可央里 片寄翔一郎
 [学] 廣兼 志保 西村 覚 久保 研二

【技術・家庭】

[小] ○竹吉 昭人
 [中] 青木 佳美 後藤康太郎
 [学] 橋爪 一治（技） 正岡 さち（家）
 鶴永 陽子（家）

【外国語活動・英語】

[小] 加藤 君江
 [中] ○鎌田真由美 須田 香織 岩崎 香織
 片寄メーガン
 [学] 縄田 裕幸 大谷みどり 猫田 英伸

【特別支援教育】

[小] 高木 潤 金築奈々恵
 [中] ○宮崎 紀雅 三浦 睦美
 [学] 原 広治

【養護】

[幼] 小松原知子
 [小] 中井 優江
 [中] ○古瀬 知美

○：主任 [幼]：幼稚園 [小]：小学校 [中]：中学校 [学]：教育学部共同研究者

平成28年11月 印 刷

平成28年11月 発 行

発 行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校園 <http://www.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印 刷 (有)木次印刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5
